

「今、何の病気が流行しているか！」

(川崎市感染症発生動向調査事業—令和5年第2週)の情報提供について

市内の定点医療機関から提供された感染症の患者発生情報をもとに市民提供情報である「今、何の病気が流行しているか！（令和5年第2週）」を作成しましたのでお知らせします。

令和5年第2週（令和5年1月9日から令和5年1月15日まで）

第2週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）感染性胃腸炎 2）インフルエンザ 3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は8.73人と前週（4.32人）から増加し、例年より高いレベルで推移しています。

インフルエンザの定点当たり患者報告数は6.66人と前週（3.95人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.24人と前週（0.16人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

今週のトピックス

“子ども達の間でインフルエンザが流行しています！”について取り上げました。

川崎市におけるインフルエンザの定点当たり報告数は、令和5年第2週（1月9日～15日）に6.66人となり、先週から増加しました。また、1月13日には、市内において令和元年以来3年ぶりに、インフルエンザによる学級閉鎖が報告され、1月17日までに計9クラスの報告がありました。

第2週における年齢階級別の割合は、5－9歳が26.1%と最も多く、15歳未満が58.4%と、全体の半数以上を占めています。学校や保育園など、集団生活の場で感染が広がっている可能性もあり、注意が必要です。

インフルエンザだけでなく、新型コロナウイルス感染症の報告も多いため、お子さんの体調不良時は無理をせず、自宅等で休むようにしましょう。また、症状が悪化した場合は、早めに医療機関を受診しましょう。

川崎市感染症発生動向調査事業では、感染症のまん延の防止と市民の健康の保持に寄与するべく、市内の定点医療機関（小児科定点37施設、インフルエンザ定点61施設、眼科定点9施設、基幹定点2施設）等から報告された感染症発生状況をもとに集計を行い、市内の感染症の発生状況の正確な把握と分析、市民や医療関係者への情報の提供を行っています。

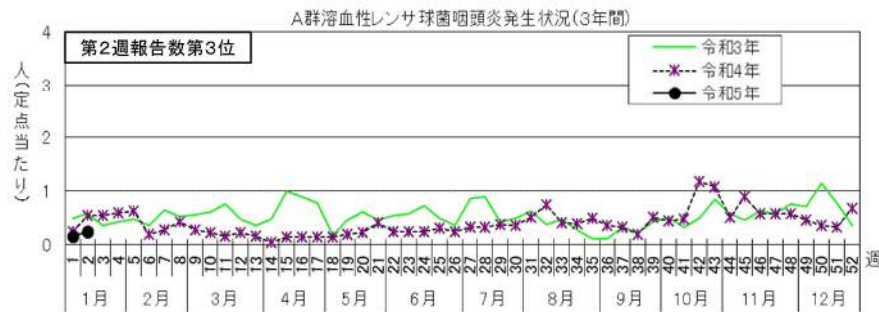
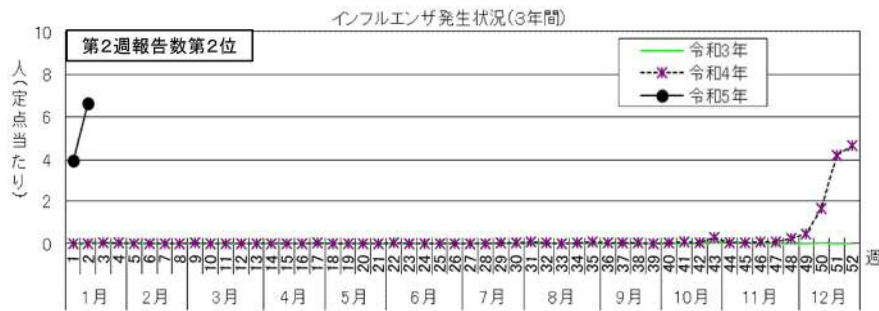
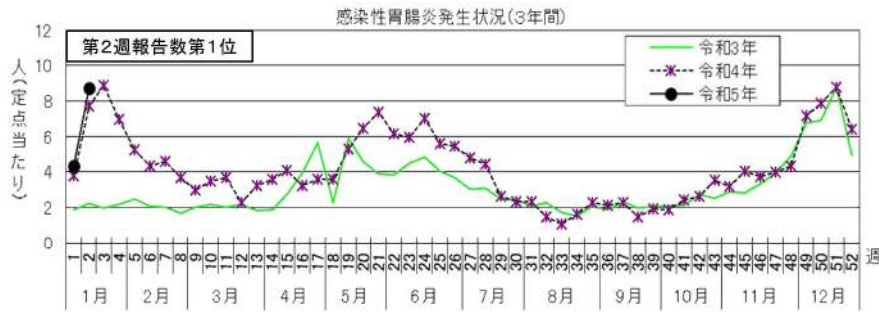
連絡先 川崎市健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当 野木
電話044（200）2446
川崎市健康安全研究所 三崎
電話044（276）8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和5年1月9日（月）～令和5年1月15日（日）〔令和5年第2週〕の感染症発生状況

第2週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) インフルエンザ 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は8.73人と前週（4.32人）から増加し、例年より高いレベルで推移しています。
 インフルエンザの定点当たり患者報告数は6.66人と前週（3.95人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.24人と前週（0.16人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



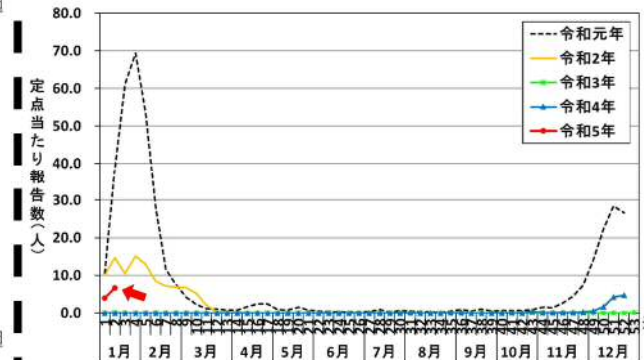
子ども達の間でインフルエンザが流行しています！

川崎市におけるインフルエンザの定点当たり報告数は、令和5年第2週（1月9日～15日）に6.66人となり、先週から増加しました。また、1月13日には、市内において令和元年以来3年ぶりに、インフルエンザによる学級閉鎖が報告され、1月17日までに計9クラスの報告がありました。

第2週における年齢階級別の割合は、5～9歳が26.1%と最も多く、15歳未満が58.4%と、全体の半数以上を占めています。学校や保育園など、集団生活の場で感染が広がっている可能性もあり、注意が必要です。

インフルエンザだけでなく、新型コロナウイルス感染症の報告も多いため、お子さんの体調不良時は無理をせず、自宅等で休むようにしましょう。また、症状が悪化した場合は、早めに医療機関を受診しましょう。

川崎市におけるインフルエンザ発生状況(5年間)



川崎市におけるインフルエンザ年齢階級別発生状況(令和4年第50週～令和5年第2週)

